

ベトナム・ダナン研修 2026 ホームページ原稿

中部学院大学／2026年9月6日（日）～9月11日（金）

トップ



【写真1】ホイアンのランタンの下で。学科も学年も越えた16人の6日間が始まりました。

Xin chào（シンチャオ）、ダナン。

— ベトナム語で「こんにちは」 —

中部学院大学 ベトナム・ダナン研修 2026

教室では出会えない「はじめまして」が、ここにはありました。

「シンチャオ！」

ベトナム語の「こんにちは」をひとつ覚えて、2026年9月、

学科も学年も違う16人がベトナム中部の街ダナンへ。

大学、病院、老人ホーム、保育園、日本語学校。

5泊6日で出会ったのは、私たちとは少し違う、でも確かに同じ

「人を支える仕事」の姿でした。

この研修のテーマ

見て終わり、ではありません。「交わる」研修です。

訪問先には、必ず現地の人と向き合う時間があります。協定校の学生とゲームで盛り上がる。入居者

の方と折り紙を折る。子どもたちと歌をうたう。学生一人ひとりが「見に来たお客さん」ではなく、プログラムをつくる側にまわります。



【写真2】 ハン川のナイトクルーズ。学生も教員も、この距離感です。

参加者は、看護学科・人間福祉学科・社会福祉学科・通信教育部の学生と、附属幼稚園の教員。専門も年齢もばらばらな16人が同じ現場を見て、それぞれ違うことに気づきます。その答え合わせの時間も、この研修のおもしろさです。なお本研修は「異文化交流」2単位として認定される、正規の授業科目です。

研修の概要

ダナンはベトナム中部最大の都市で、長い砂浜と山、そして世界遺産の街ホイアンに囲まれた港町です。研修先のダナン医薬技術大学は本学の協定校で、毎年この地を訪ねています。

2026年度は9月6日から11日までの5泊6日。名古屋（中部国際空港）からハノイ経由でダナンへ。現地の移動は全行程チャーターバスで、通訳の方が同行します。ホテルは砂浜まで徒歩5分です。



【写真3】 ダナンのシンボル、ドラゴンブリッジ。川には光をまとった遊覧船が行き交います。

【6日間の流れ】

	日付	内容
Day 1	9月6日（日）	日本を出発、ダナンに到着／夜はハン川の遊覧船へ
Day 2	9月7日（月）	ダナン医薬技術大学を訪問（MOU 締結・学生交流会）
Day 3	9月8日（火）	THIEN TAM AN 老人ホーム／グハンソン地区病院を視察
Day 4	9月9日（水）	たんぽぽ保育園・日本語学校で交流
Day 5	9月10日（木）	バナーヒルズ／リンウン寺／世界遺産の街ホイアン
Day 6	9月11日（金）	帰国

訪問先① ダナン医薬技術大学（Day 2）

歴史ある協定校と、新しい約束を交わしました。

ダナン医薬技術大学は、1963年の創立から63年の歴史を持つ医療系の総合大学です。看護学科の学士課程は2025年にAUN-QA（ASEAN大学ネットワーク品質保証）の認証を取得しており、教育の質が国際的に認められています。

この日、両大学のあいだでMOU（包括連携協定）が結ばれました。本学看護学科からは、看護学生の交換留学と、教員による共同研究をすすめていきたいとお願いをしました。いつか、この記事を読んでいる皆さんがダナンで学ぶ日が来るかもしれません。



【写真 4】ダナン医薬技術大学にて。この日、両大学のMOUが結ばれました。

調印式のあとは学生交流会です。本学からは看護学科の1・2年生が大学を紹介し、先方からは4年生の皆さんが自分たちの大学を紹介してくれました。後半は交流ゲームで一気に距離が縮まり、笑い声の絶えない時間に。ことばは違っても、同じ道を志す仲間だとすぐに伝わってきました。



【写真5】学生交流会。本学の学生が中部学院大学を紹介しました。



【写真6】交流ゲーム。日本の箸にも挑戦してもらいました。

ちなみに先方の看護学科は4年制で、カリキュラムは合計135単位。卒業にはTOEICやIELTSなどで英語力を示す必要があります。身の引きしめる話でした。

訪問先② THIEN TAM AN 老人ホーム（Day 3 午前）

折り紙が、いちばんの通訳でした。

介護職やリハビリ職といった専門職が運営する有料の高齢者施設です。施設長さんの説明で、参加者が思わず顔を見合わせた話があります。この施設では入居者の状態をレベル0から3に分けているのですが、数字が大きいほど「軽度」なのだそうです。日本の要介護度は1から5で数字が大きいほど重度ですから、ちょうど逆でした。



【写真7】THIEN TAM AN 老人ホーム。専門職が運営する、新しく明るい施設でした。

交流の時間に学生たちが用意したのは折り紙。テーブルを囲んで一枚の色紙を一緒に折っていくうちに、ことばが通じなくても自然と笑顔がこぼれます。現地のスタッフの方々も輪に加わり、いつのまにか部屋じゅうが折り紙教室になりました。

訪問先③ グハンソン地区病院（Day 3 午後）

「違う」を知ることが、学びのはじまりでした。

本学が10年来の交流を重ねてきた病院です。案内していただいた病棟は、日本とはずいぶん様子が違います。大部屋にベッドが並び、ナースコールや酸素の配管も見当たりません。学生たちは静かに、けれど真剣に見て回りました。

質疑応答で見えてきたのは、日本とは違う仕組みの数々です。医療費は6歳未満と75歳以上が無料。高齢の患者さんは回復するまで入院を続けられます。看護師は1人で6～8人を受け持ち、日本の二交代・三交代とは異なり一日を通して同じ看護師が担当しますが、離職率は高くないそうです。設備の違いに驚いた一方で、日本にはない安心のかたちも知りました。



【写真 8】高齢者病棟で。数字カードのゲームに、拍手と笑顔が広がりました。



【写真 9】老年科（KHOA LÃO）にて。10年来の交流が続いています。

見学のあとは、高齢者病棟の患者さんたちと交流の時間。数字を書いたカードを床に広げ、簡単なゲームと一緒に盛り上がりました。ことばが通じなくても、楽しさは同じです。

訪問先④ たんぽぽ保育園（Day 4 午前）

じゃんけん列車で、ひとつにつながりました。

日本語と日本式の保育を取り入れている、ダナンの保育園です。この日の主役は本学附属幼稚園の教員たち。じゃんけん列車では園児と研修生がつながって一本の長い列になり、先生たちがつくった手のトンネルをくぐっていきます。保育室じゅうに笑い声が広がりました。



【写真 10】 たんぽぽ保育園へ。ベトナム国旗が青空にはた
めいていました。



【写真 11】 じゃんけん列車。園児と研修生が、一本の長い
列になりました。

そのあとは園児たちと折り紙を折り、みんなで歌をうたいました。交流の最後には、ベトナム人の保育士さんたちと質疑応答の時間も。日本とベトナム、それぞれの保育の現状を率直に語り合いました。

訪問先⑤ 日本語学校（Day 4 午後）

日本を目指す仲間に、日本を伝える。

ここで学んでいるのは、日本での就労を目指す、私たちと同世代の若者たちです。教室の壁には日本地図が貼られ、日本語の教材が並びます。海の向こうの国をこんなにも真剣に学んでいる人たちがいる——その事実に、まず胸を打たれました。

研修生は4つのクラスに分かれ、日本文化のクイズを出題。東京タワーやスカイツリーに加えて、地元・岐阜県の紹介もしました。そのあとはあやとりと折り紙です。一度見せると、みんなすぐに覚えてしまいます。最後は先生方が用意してくださったベトナムの果物をいただきながら歓談の時間。日本で会えるかもしれない人たちと、同じテーブルを囲んだ午後でした。



【写真 12】 日本語学校の教室にて。壁には日本地図、机には日本語の教材が並びます。

観光・文化体験（Day 1 夜／Day 5）

学んだ分だけ、思いきり楽しむ。

到着した初日の夜は、ハン川の遊覧船へ。デッキから見上げる夜景は、川沿いのビルも行き交う船も色とりどりのライトで輝いています。街のシンボル、ドラゴンブリッジが金色にライトアップされる光景に歓声が上がりました。



【写真 13】ハン川のナイトクルーズ。デッキから街の灯りを楽しみました。

5 日目はロープウェイで一気に山の上へ。フランス統治時代に避暑地として開かれたバナーヒルズです。この日は一面が霧に包まれ、幻想的な雰囲気の中を歩きました。巨大な石の手が黄金の橋を支える「ゴールデンブリッジ」では、全員がカメラを構えるのに夢中でした。



【写真 14】ゴールデンブリッジ。巨大な手が橋を支えています。



【写真 15】「I ♥ DA NANG」。すっかりダナンの虜です。



【写真 16】霧に包まれたバナーヒルズの庭園にて。

ダナン湾を見下ろす高台に立つリンウン寺では、高さ約 67 メートルの白い観音像「レディブッダ」が海を見守っています。そして世界遺産の街ホイアンへ。16～17 世紀に国際貿易港として栄えた旧市街には、かつて日本人街があり、その名残を今に伝えるのが「日本橋（来遠橋）」です。日が暮れると街じゅうにランタンの灯りがともりました。



【写真 17】リンウン寺のレディブツダ。高さ約 67 メートル、海を見守っています。



【写真 18】日本橋（来遠橋）の前で。かつて日本人街があった場所です。

ベトナム料理もこの研修の楽しみです。フォーに生春巻き、土鍋料理、そして丸ごとのココナッツジュース。地元のスーパーではバゲットがカートいっぱいになぶる光景に驚きながら、コーヒー豆やお菓子をお土産に選びました。



【写真 19】ベトナム料理とココナッツジュース。



【写真 20】ココナッツは丸ごと 1 個。ストローでいただきます。



【写真 21】スーパーマーケットにて。カートいっぱいのバゲットに驚きました。

まとめ

6 日間で、世界は少し広くなりました。

看護教育、高齢者介護、地域医療、保育、日本語教育。訪ねたのは、どれも「人を支える」現場でした。制度も設備も働き方も日本とは違います。けれど、目の前の人を大切にしたいという思いは、驚くほど同じでした。

違いに出会うたび、参加者は考えました。なぜここではこのやり方なのだろう。日本のあのやり方は、本当に最善なのだろうか。答えの出ないその問いこそが、この研修がくれたいちばんの宝物かもしれません。ことばが十分に通じなくても、折り紙で、ゲームで、歌で、笑顔で、私たちは確かにつながることができました。

ダナン医薬技術大学との MOU 締結によって、これから看護学生の交換留学や、教員どうしの共同研究が動き出します。中部学院大学とダナンの物語は、まだ始まったばかりです。



【写真 22】 また会う日まで。Hẹn gặp lại (ヘン ガップ ライ) ！